

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26381171

研究課題名(和文) イギリス関連政府型地理カリキュラムの新展開に関する研究

研究課題名(英文) A study on the new development of the UK related government geography curriculum

研究代表者

吉田 剛 (YOSHIDA, Tsuyoshi)

宮城教育大学・教育学部・教授

研究者番号：10431610

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、比較・分析を通して、イギリスに関係の深い政府(香港、オーストラリア、シンガポール)における新しい地理カリキュラムとその中の地理的概念の特徴について明らかにした。そして地理的概念の特徴から、アメリカ合衆国・中国・我が国も含め、それら諸外国地理カリキュラムを三つに類型化した。その上で、コンピテンシー重視の点から、我が国における一貫地理カリキュラムや地理的概念のあり方について検討した。

研究成果の概要(英文)：Through comparison and analysis, this study revealed the new geographical curriculum in the governments (Hong Kong, Australia and Singapore) related to the UK and the features of the geographical concept therein. And from the features of the geographical concept, we categorized those foreign geography curriculums including the United States, China and Japan into three. In addition, from the viewpoint of emphasizing competency, we examined the consistent geographical curriculum and geographical concepts in our country.

研究分野：教科教育学

キーワード：地理的概念 コンピテンシー 一貫性 イギリス オーストラリア シンガポール アメリカ合衆国
中国

1. 研究開始当初の背景

新学習指導要領の方向を踏まえ、地理的概念に関わる我が国の地理的見方・考え方に新たな示唆を求めていく必要がある。そこで、我が国の社会系地理カリキュラムを相対化し、その特徴を吟味するために諸外国の新しい地理カリキュラムを比較・分析する意義がある。先行研究では、イギリス地理カリキュラム(英地理)によるイギリス関連政府(英関連政府)への影響が窺える。しかし、地理カリキュラムに重要となる地理的概念の内容や取扱いに関する詳細な比較・分析がなされていない。主な課題には、英関連政府の新しい地理カリキュラムにおける地理的概念の検討、地理的概念による地理カリキュラム類型に関する追究、諸外国地理カリキュラムの動向を踏まえた我が国の地理カリキュラムの新たな創造などがあげられる。

2. 研究目的

本研究は、英地理の動向を踏まえ、英関連政府となる香港、シンガポール、オーストラリア連邦などの新しい地理カリキュラムを比較・検討しながら、とくに英関連政府の地理カリキュラムとその中にみられる地理的概念の特徴について明らかにする。そして、国際的な影響力をもつアメリカ合衆国と中国および我が国を含め、それら諸外国地理カリキュラムについて地理的概念から類型化し、各特徴について吟味する。その上でコンピテンシー重視の新時代に向けた我が国の社会系地理あるいは幼小中高を一貫する地理カリキュラムの在り方などを検討することを目的とする。

3. 研究の方法

- (1)英地理 2007 年版(英地理 2007)(中学校段階)の地理的概念を吟味する。英地理 2000(1999)年版(英地理 1999)の知識理解領域の地理的概念の特徴を踏まえ、英地理 2007 との関連を検討し、英地理 2007 の地理的概念の背景を理解する。とくに地理的概念の「学習の内容的側面」と「学習的方法的側面」への機能や扱い方に着目する。
- (2)英関連政府の新しい地理カリキュラムにおける地理的概念について、英地理 2007 との関連を含め、比較・分析する。香港政府 2011 年版(香港地理 2010)(中学校段階)の地理的概念の内容や扱い方には、本質的な学習要素に着目して分析・考察する。そしてオーストラリア連邦の地理カリキュラム 2013 年版(豪地理 2013)(幼小中高一貫)やシンガポール 2014 年版(新嘉坡地理 2014)(中学校低学年段階)の地理的概念の内容や取扱いについて分析・考察する。これらから、英地理 2007 を基点に比較・考察し、英関連政府の新しい地理カリキュラムにおける地理的概念の特徴(共通性・差異)について考察する。
- (3)英地理 2007、香港地理 2010、豪地理 2013、

新嘉坡地理 2014、中国地理カリキュラム 2011 年版(中国地理 2011)(中学校段階)、アメリカ地理ナショナルスタンダード 1994 年版(米地理 1994)(幼小中高一貫)、平成 20 年版中学校学習指導要領解説社会編地理的分野(日本地理 2008)などの地理的概念の比較・検討を通して、価値態度育成(資質)に関わる地理的概念としての「持続(可能)性」の意味を見だし、あるいは地理的概念から各政府の地理カリキュラムの特徴について考察し、類型化する。それをもとに、コンピテンシー重視の我が国の地理カリキュラムあるいは授業構成システムの方向について言及する。

- (4)近年の豪地理 2013 とオーストラリア・ニューサウスウェールズ州地理カリキュラム 2015 年版(NSW 地理 2015)(幼小中高一貫)のカリキュラム構成や地理的概念などについて詳細に分析し、幼小中高を一貫する地理カリキュラムの方向に関する議論も含め、我が国への示唆を導き出す。
- (5)アメリカ合衆国の主な地理カリキュラムの動向を踏まえ、米国地理 1994 にみる地理的概念の機能について探究し、また我が国中学校学習指導要領社会科地理の変遷を同様に探究し、比較・考察する。そして我が国の地理カリキュラムやその中の地理的概念あるいは地理的見方・考え方などの特徴や課題について明らかにする。
- (6)日本地理 2008 の各単元、とくに単元「日本の諸地域」を中心に地理的概念を詳細に分析し、ミクロな視点から、単元間の地理的概念の特徴や課題について言及する。
- (7)マクロな視点から、地理的概念に基づく我が国の幼小中高一貫地理カリキュラムの可能性について、平成 29 年版新学習指導要領解説の記述より検討する。

4. 研究成果

(1)英 2007 の地理的概念の特徴

英 2007 年版は、「場所」「空間」「スケール」「相互関係」「自然的・人文的プロセス」「環境の相互作用と持続可能な開発」「文化の理解と多様性」などの地理的概念を示す。各々は、地理的認識の内容(理解)と方法(思考)から端的に説明され、地理的概念の三つの序列階層的な特徴からみられる。それらは英 1999 の学習内容(知識理解)の「場所」「パターンとプロセス」「環境変容と持続可能な発展」の説明に繋がる。英地理 1999 の「場所」は、五つの小項目(立地・スケール・自然的/人文的特徴・変化/課題・相互依存/市民性)から詳細に説明される。また「パターンとプロセス」は、自然的・人文的特徴のパターンとプロセスを、場所や環境の特質との関連から説明されるため、英 2007 の「場所の相互依存」や「自然的・人文的プロセス」に繋がる。原理的にみると、英 1999 の地理的概念は、「場所」を基礎に、「環境」が柱となり、「持続性」に繋がる。英 2007 を英 1999

からみると、「空間」「スケール」「相互依存」は、英 1999 の「場所」の細分化されたものとなり、「自然的・人文的プロセス」は、英 1999 の「パターンとプロセス」を、「環境の相互作用と持続可能な開発」は、英 1999 年版の「環境変容と持続可能な発展」を端的に示したものとなる。英 2007 は、各地理的概念の内容に認識方法からの説明が加わる。また「場所」の意味が細分化し、「文化の理解と多様性」が付加されたものとなる。

(2) 英関連政府の新しい地理カリキュラムにみられる地理的概念の共通性と関連

基礎的な「場所」「空間」「環境」が共通にみられる中で、「場所」が最も基礎的で他概念との関連的な記述がみられる。「スケール」は、とくに「場所」「空間」の補完的な「学習の方法的側面」に特化して機能する（香港を除く）。全般的には、「学習の方法的側面」に機能する地理的概念が強調され、資質に関わる「持続性」の意味もみられ、コンピテンシー重視の地理的概念の共通性と関連がみられる。一方、各政府の差異とその要因について検討すると、香港地理 2010 年版は、地理教育国際憲章 1992 年版の地理的概念の影響が窺えるが、地理的概念の活用は明確に強調されていない。時間的にも他の英関連政府と比べて早期に作成されたためであると考えられる。豪 2013 年版と新嘉坡 2014 年版は、英文化交流や、近い位置関係などから近似点が多い。しかし、教科配置に根本的な差異があり、地理的概念の発達段階上の位置付けが異なる。新嘉坡地理 2014 年版の地理的概念はシンプルで活用性が高い。一貫系統からみると、豪地理 2013 年版は理論的に明確で各学年の単元に位置付けられ、学習の積み上げの意図が鮮明である。よって、各政府の地理的概念の内容と取扱いは異なる。各政府の研究者・教員などの地理的概念に対する認識のもと、コンサルテーションなどを通じて実施版が作成されているからである。

(3) 諸外国地理カリキュラムにみる「持続（可能）性」に関わる地理的概念

分析対象とした諸外国地理カリキュラムは、米地理 1994、英地理 2007、豪地理 2013、香港地理 2010、新嘉坡地理 2014、中国地理カリキュラム 2011 年版、日本地理 2008 の七つである。米地理 1994 では、内容構成「環境と社会」に「学習の内容的側面」に機能する「環境」が、続く内容構成「地理の実用」に「学習の方法的側面」に機能する「変化」が読み取れる。「持続（可能）性」は、これら二つの相互補完によって見いだせる。英地理 2007 では、「環境の相互作用と持続可能な開発」と「文化の理解と多様性」に二つの学習側面に機能する「持続（可能）性」が読み取れる。豪地理 2013 では、「環境」を中心に時間軸から発展的に考えさせることによる「持続（可能）性」が読み取れる。香港地理 2010 では、

シンボリックな六つの地理的概念のうちの「持続発展」と「地球的相互依存関係」が「持続（可能）性」として読み取れる。主に、前者は「学習の方法的側面」に、後者は「学習の内容的側面」に機能する。新嘉坡地理 2014 では、「持続（可能）性」が直接的にみられないが、社会問題を重視した学習となり、「環境」を中心に「持続性」に関わる資質育成が全体に求められている。中国地理 2011 では、理念部の価値態度、目標部の情意態度価値観における持続発展・防災・環境保護・行動、構成部の地理的概念活用による「環境と発展」などに「持続性」に関わる主な記述がみられる。全般的には、現代的な中国の環境問題への意識化に向けて、「環境」を中心に環境問題・環境開発・環境保全・持続発展の文脈が所々にみられ、「持続性」が求められている。

(4) 諸外国地理カリキュラムの地理的概念から考える地理カリキュラムの類型

諸外国地理カリキュラムにおける地理的概念の特徴について、吉田・管野(2016)による地理的概念の機能から類型化すると、大きく「トップダウン」型、「ボトムアップ」型、現代的な「地理的概念活用重視」型の三つが考えられる。コンピテンシー重視の「地理的概念活用重視」型は、豪地理 2013 と新嘉坡地理 2014 年版が概ね該当する。両者は、コンピテンシーに関わる汎用的能力の育成が明確に求められている。豪地理 2013 は、「トップダウン」型（米英型）ともいえるが、新嘉坡地理 2014 と同様に、「学習の方法的側面」に機能する地理的概念がより明確に示されている。他方で、香港地理 2010 は、英地理 2007 と同様な地理的概念が学習内容に関連付けられているが、二つの学習側面に関する機能が明確に示されていない。また香港地理 2010 は、多重な地域規模の枠組みから学習内容が構成されているため、「ボトムアップ」型（東アジア型）に近い。コンピテンシー重視に関わる地理的概念の活用は、現代的な地理カリキュラムを分析するための重要な視点となる。そして「地理的概念活用重視」型は、今後の我が国における地理的な見方や考え方の在り方に示唆を与えてくれる。

(5) 「地理的概念活用重視」型に向けて

日本地理 2008 における目標や地理的見方・考え方に関わる記述より、地理的概念の理解と活用の深まりについて検討する。「学習の内容的側面」に機能する地理的概念は、単元内容に潜在的に備わるが、その顕在的な体系化が課題となる。また「学習の方法的側面」に機能する地理的概念は、カリキュラム・マネジメントを視野に入れると、「地理的見方・考え方」として未だ抽象的であり、地理的概念の要素構成と追究過程の一層の具体化が課題となる。これらの改善案の方向には、学習内容づくりにおける「学習の内容的側面」に機能する地理的概念と地理的事象の三層との

関係の明確化が考えられる。地理的概念は地理カリキュラムの基底にあり、その上に地理的事象三層があることに留意して授業構成を行うことによって、地理的概念の理解や活用の深まりが求められる。また、「学習の方法的側面」に機能する地理的概念からみると、地理的見方・考え方を育成する学習展開は、地理的事象、地理的概念、思考スキルなどの関係から考えられる。地理的見方・考え方として活用される地理的概念は、学習方法の観点となって学習・思考される役割を担う。その際に、地理的事象三層に依拠して、地理的概念を活用するための思考スキルがあり、また学習対象を問うための主な疑問詞や句が考えられる。以上によって、二つの学習側面に機能する地理的概念による地理カリキュラムと授業構成システムは、原理的に考えられる。その中で、諸外国地理カリキュラムにみられる「持続（可能）性」は、二つの学習側面に機能する地理的概念として組み込まれる。

(6) NSW 地理 2015 による我が国の一貫地理カリキュラム構想

豪地理 2013 から展開された NSW 地理 2015 の地理的概念は、コンピテンシー重視の我が国への示唆の点で、具体的な内容を持って幼小中高と系統的に位置づけられ、地理的探究スキルや地理ツールなどとともに授業経営に結び付けやすい点で評価できる。とくに NSW 地理 2015 の地理的概念の二つの学習側面への機能に関する議論は、有益な示唆を与えてくれる。日本地理 2008 は、総体的に「ボトムアップ」型とみなせるが、単元「日本の諸地域」だけみると、日本を幾つかの地域に区分し、地理的概念を中核とした考察に用いる動態的な地誌学習となり、「トップダウン」型の特徴に近い。このことは、地理カリキュラム全体を一貫してみるか、単元毎にみるかの議論に繋がる。授業経営の点からみると、各単元が別々の複雑な教授方式をとるよりも、NSW 地理 2015 のように、系統立てて一貫した構造をとる方が、授業者や学習者の理解にとって、地理的概念の知識理解の積み上げや活用の高度化が期待できる。そのように考えると、小学校社会科の構造や中高地理の地誌的学習の扱い方あるいは一貫する地理カリキュラムの大きなリフォームが必要となる。さらにカリキュラム・マネジメントを促進させていくためには、現場教員の意見の尊重や授業経営への配慮、地域や児童生徒の実態にも応じられる柔軟性や汎用性の観点も踏まえなければならない。地理的概念の二つの学習側面への機能を踏まえた小中高一貫地理カリキュラムの大枠となるイメージを構想した場合、次の三つの要点が考えられる。
<1>小学校低中高の学年、中学校・高等学校地理の5つの「ステージ」には、一貫する二つの学習側面に機能する地理的概念が関係付けられる。とくに「学習の内容的側面」に機能する地理的概念には、その序列階層的な

特徴への配慮がなされる。

<2>地理的概念の系統性には、各「ステージ」に、次の三つの段階的な意図による重なり合いに軽重が付けられる。

地理的概念そのものの理解に重きを置く。

による地理的概念が地理的見方・考え方として、学習・思考の際に観点となって活用されていき、地理的概念を基底とする様々な地理的事象やその意味・意義による学習内容のまとまりが理解されていく。

の一層の積み重ねによって、深い地理的概念の理解とより発展的な地理的概念の活用が可能になっていく。それと同時に、資質育成に必要な高度な思考力や判断力が身に付けられていく。

<3>各単元において、中心題目および主要内容事項は「学習の内容的側面」に機能する地理的概念に関係付けられる。中心発問や指示などは、地理的見方・考え方として、「学習の方法的側面」に機能する地理的概念に関係付けられる。実際に発問や指示、地理的探究スキルや地理的ツールなどを組み込みながらカリキュラム開発や実践を行い、様々な学校現場のカリキュラム・マネジメントに応じられるその可能性について探る必要がある。

(7) 地理的概念に着目した日米地理カリキュラムの比較

戦後、我が国中学校地理カリキュラムには随所に、米国の主な地理カリキュラムの影響が窺える。「学習の方法的側面」に機能する地理的概念は、我が国の方が「地域」に関わる概念を中心に複雑で多様化・高度化してきている。米地理 1994 年版にみる地理的概念の特徴には、「学習の内容的側面」に機能する「小さな地理的概念」の原理的な構造性と、「学習の方法的側面」に機能する「小さな地理的概念」の原理的な順次性がシンプルにみられる。我が国の場合は、「学習の内容的側面」に機能する「地域」の枠組みを柱に、「地理的な意味のまとまり」によって複雑に構成されてきている。他方で、米地理 1994 年版の地理的パースペクティブと歴史的・経済的パースペクティブには、各分野の抽象度が高い概念を含み、授業に反映されやすい。ここには、地理を含む社会諸科学の概念の相互補完的な扱い方の意義が見いだせる。地理的概念を背景にして一貫させた米地理 1994 年そしてそのセカンドエディション 2012 は、ウェブサイトなどを通じて、その授業への具現化を図っている。世界的なコンピテンシー重視の動きが教科横断的に深く展開され、広く根付いていくとすると、教科あるいは分野の固有の内容や方法は不鮮明になっていく。その中で地理カリキュラムは、地理的概念を中心とする方向に向かっている。

(8) 諸外国地理カリキュラムから我が国の課題へ

国内における地理的概念の内容と取扱い

に関する深い議論が必要である。我が国の新学習指導要領には、中高に地理教育国際憲章 1992 年版の地理的概念が示されることになったが、それは世界的ともいえるが、一方でシンボリックであり、他律的ともみなせる。英関連政府はもちろんのこと、諸外国では、独自の地理的概念を示している。社会系教科構造における各学問分野の系統と、地理的概念の位置付けの明確化が必要である。主要な概念を中心にした社会認識の積み上げを明示し、地理分野としては、幼稚園教育・生活科・小学校社会科・中学校社会科地理・高校地歴科地理における潜在的な地理的概念を顕在化させ、一貫的にみる議論が必要である。他方で、歴史的概念や政治的概念なども同様に考え、それら総合のあり方の検討も社会系教科としては重要である。

地理的概念の抽象度（質）とカリキュラム上の位置付けを論理的に整える必要がある。英関連政府では様々であったが、まず「学習の内容的側面」に機能する地理的概念か、「学習の方法的側面」か、一体的に考える場合の地理的概念の扱い方か、などの整理である。次に、地理的概念の位置付けとして、カリキュラム全体、学年、単元、一授業といった様々なカリキュラム構成の各所における地理的概念の扱い方の議論が必要である。例えば、これまでの授業実践から地理的概念の活用とその抽象度を洗い出す、あるいは社会科と地理科の接合に関するカリキュラム上の地理的概念に関する課題を洗い出す、などといった方法・手順が考えられる。加えて、二つの学習側面に機能する地理的概念（「持続（可能）性」も追加）からみる地理の見方・考え方などの学習展開上の関係について新たに論理的に示す必要がある。

(9) 日本地理 2008 の各単元にみる地理的概念 - 単元「日本の諸地域」を中心に -

地理的な見方や考え方の理念的な内容は、「2 内容」の各単元内容において落とし込まれている。そして、授業実践に向けてその汎用性を高め、地理的概念の内容そのものの扱い方を具体的に吟味する必要がある。ただし、社会科としてみる場合、地理的概念と、歴史的概念や政治・経済的概念などとの相互補完的な関連を図り、歴史的分野や公民的分野との効果的な連携が可能な枠組みが必要となる。日本地理 2008 は、様々な単元において二つの学習側面の各々に機能する地理的概念を学習していくが、複雑で潜在的でありながらも発展的な段階が用意されている。しかし、その意図を顕在化させ、明瞭に単元構成を行い、授業実践に反映させる方向も重要である。そこで、一つの単元に多様なスケールから二つの学習側面に機能する地理的概念について、体系的に学習する方向が考えられる。あるいは日本地理 2008 では、「学

習の内容的側面」に機能する地理的概念として、「地域」が単元構成の中心軸のようにみえる。しかし、様々な地理的概念の取り上げや、その配列・階層性、それに関わる学習対象となる様々な地理的事象・意味・意義の取り上げ方などの体系化や、それに伴って、地理的な見方や考え方にみられる地理的概念の活用も含めて、議論する必要がある。現実的には、動態地誌的な学習の在り方も含め、主題、考察観点、考察事項、学習イメージなどの授業展開上の項目などについて再吟味する。さらに、地理的探究や地理的スキルに必要な地理ツールの体系的な組み込みなどの具体的な例示が必要である。

(10) 我が国の幼小中高一貫地理カリキュラムの中核となる地理的概念

我が国の資質・能力の育成に向けて、学問固有の地理的概念による一貫地理カリキュラムについて具体的に考えると、まず、平素の授業を想定すると、学習指導要領の理解が重要である。ただし、小学校では地理関連科目が総合性を持った生活科と社会科となる。そのため、先行研究上、その一貫性の議論は、理想論で止まざるを得ない。そこで、新幼稚園教育要領「環境」領域、新小学校学習指導要領生活編・社会編の記述に隠れた地理的概念の意味を見いだすと、幼稚園教育・小学校生活科には自己との直接的な関わりから、隠れた地理的概念として身の回りの「場所」「環境」の意味の学習の内容と方法がみられる。それには、狭い「空間」の意味からの空間的拡大が付随するが、学習段階に沿って「持続性」も関わる。続く小学校社会科では、学習の内容と方法にそれら地理的概念がみられるが、カリキュラムの環境拡大アプローチによって、地理的概念の序列階層的な特徴を伴い、様々な「スケール」や「相互作用」あるいは「地域」などの意味が積み重なってくる。そこで、一貫地理カリキュラムの一案として、例えば、基本柱に「環境」、基礎となる「空間」「場所」、価値態度・行動に繋がる応用的な「持続（可能）性」(ESD・SDGsとの関連が図られたもの)を一貫地理カリキュラムの中核とする。さらに、他の絞られた地理的概念を付随させて、幼稚園教育・小学校生活科・社会科から中学校社会科地理的分野そして高等学校地歴科地理へと繋げることが考えられる。このような一貫地理カリキュラムの骨組みとなる地理的概念をもとに、どのような題材を取り上げて構成するか、といった論点からみると、日本・世界の諸地域に関する地誌的内容や系統地理的内容あるいは地理的方法（地理的スキルや地理的ツール）などの積み上げ方を考える必要があり、複合的な内容構成の議論へと繋がる。地理的概念を中心とする地理的認識の形成あるいは市民的資質の育成が具体的にどのようなものとなるべきかは、大きな課題となる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

吉田 剛 (2017): 地理的概念の機能に着目した日米地理カリキュラムの比較研究. 社会科教育論叢(全国社会科教育学会), 第50集, pp.61-70. (通常査読無)

吉田 剛 (2017): 小・中・高一貫地理カリキュラム 二つの学習の側面に機能する地理的概念の体系. 『社会科教育』(2017年8月号)明治図書, pp.8-11. (査読無)

吉田 剛・管野 友佳 (2016): オーストラリアにおける「ニューサウスウェールズ州」および「連邦」地理カリキュラムの地理的概念の機能に関する比較研究 - コンピテンシー・ベースによる地理カリキュラムからの示唆 -. 社会系教科教育学研究(社会系教科教育学会), 第28号, pp.101-110. (査読有)

吉田 剛 (2016): 諸外国地理カリキュラムにみる「持続性」に関する地理的概念. 新地理(日本地理教育学会), 第64巻3号, pp.82-92. (通常査読無)

吉田 剛 (2015): 社会系地理教科書にみる東南アジアとオセアニアに関する情報の分析と世界地誌学習の改善. 新地理(日本地理教育学会), 第63巻2号, pp.76-83. (通常査読無)

〔学会発表〕(計10件)

吉田 剛 (2018): 幼稚園教育要領と小学校学習指導要領解説(生活・社会編)にみる隠れた地理的概念. 日本地理学会(東京学芸大学)

吉田 剛 (2018): イギリス関連政府の地理教育カリキュラムにみる地理的概念の比較研究. 社会系教科教育学会(京都教育大学)

吉田 剛 (2017): 米国地理カリキュラムにみる地理的概念の系統性. 全国社会科教育学会(広島大学)

吉田 剛 (2017): 地理的概念の機能に着目した日米地理カリキュラムの比較研究. 日本カリキュラム学会(岡山大学)

吉田 剛 (2016): 戦後中学校地理カリキュラムの動向にみる「学習の内容的側面」と「学習の方法的側面」に機能する地理的概念の原理 - コンピテンシー ベースの時代へ -. 全国社会科教育学会/社会系教科教育学会(兵庫教育大学)

吉田 剛 (2016): 諸外国地理カリキュラムにみる持続性に関わる地理的概念. 日本地理学会地理教育公開講座(東北大学川内キャンパス)

管野友佳・吉田 剛 (2016): 地理的概念を育成する小学校社会科の単元開発 ~ オーストラリア・ニューサウスウェールズ州を参考にして ~. 全国社会科教育学会/社会系教科教育学会(兵庫教育大学)

吉田 剛・管野 友佳 (2016): オーストラリア地理カリキュラムの展開 - ニュー

サウスウェールズ州の場合. 社会系教科教育学会(鳴門教育大学)

吉田 剛 (2016): 学習の内容的側面と方法的側面に機能する地理的概念の原理. 日本地理教育学会(慶応義塾大学日吉キャンパス)

吉田 剛 (2014): 諸外国の地理カリキュラムにみる地理的基本概念の機能. 日本社会科教育学会(静岡大学)

〔図書〕(計1件)

吉田 剛 (2016): 中学校学習指導要領社会科地理カリキュラムにみる学習の内容的側面と方法的側面に機能する地理的概念. 山口・山本ほか編『地理教育研究の新展開』古今書院, pp.24-33.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

とくになし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉田 剛 (YOSHIDA Tsuyoshi)

宮城教育大学・教育学部・教授

研究者番号: 10431610

(4) 研究協力者

管野 友佳 (KANNO Yuka)